

要約

目的

本研究は大学生の持つ被災者になり得るという側面と、復興を支えるボランティアになり得るという側面の両側面に注目し、研究1では大学生の防災意識の向上に関する実験的検討を行い、研究2では大学生の震災ボランティア参加動機、研究3では参加・継続しやすい震災ボランティアを検討することを目的とした。

研究1

大学生の防災意識を高める要因について検討した。大学生30名を3群に分け、それぞれの群に内容の異なる6分間のスライド（脅威への脆弱性条件、反応効果性条件、統制条件）を視聴させ、その直前・直後に質問紙を回答させた。結果、防災意識の変化量に脅威への脆弱群と統制群間、反応効果群と統制群間で有意差がみられた。防災意識また、「脅威への脆弱性」が「反応効果性」よりも防災意識を高めることが分かった。本研究から、防災に関する情報が、大学生の防災意識を高めることに有効であることが示唆された。

研究2

大学生の震災ボランティア活動への参加意欲・経験及び参加動機を検討することを目的とした。大学生116名に質問紙調査を行った結果、過去に震災ボランティア参加経験がない人の割合は88%、将来震災ボランティアに参加したい人の割合は86%だった。また、参加動機を自由記述で求めKJ法で分類した結果、【自分の為】【他者の為】【経験から】の3つの中カテゴリーが抽出された。利己的・利他的・過去の震災時の経験という動機が、大学生の震災ボランティアへの関心を高めていると示唆された。

研究3

震災ボランティアの参加に関わる要因について、種類別に明らかにすることを目的とした。大学生297名に質問紙調査を行った結果、震災ボランティアの活動内容によって、動機や参加者の特性が異なった。従って、参加希望者の動機や特性の把握が震災ボランティアの参加と影響することが示唆された。